

オリンピック・パラリンピックを通したまちづくりの考え方

1972年～現在～2030年大会へ

- 地下鉄南北線や地下街、道路網といった都市基盤の整備が促進
 - さっぽろ雪まつりの様子が大会の映像とともに世界中に紹介され、国内外から多くの観光客が訪れるようになり、国際観光都市としての地位を確立
- オリンピックの開催をきっかけに国内有数の都市に成長
- ↓
- 一方、解決すべき課題が存在（人口減少・少子高齢化といった社会構造の変化への対応、1972年前後に急速に整備されたインフラの更新、共生社会の実現、気候変動対策等）



➡ オリンピック・パラリンピックという人々の力を結集する絶好の機会を活かし、課題の解決に向けた多くの取り組みを推進することで
100年後も輝き続ける持続可能なまちを構築するための礎に

大会がもたらすまちの未来

大会ビジョン
「札幌らしい持続可能なオリンピック・パラリンピック ～人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを～」

- 持続可能なまちづくりを進める絶好の機会であるオリンピック・パラリンピックを最大限生かすため、目指すべき方向性（ビジョン）を構築
- 2019年に実施したワークショップにおいて、オリンピック・パラリンピックに対して「健康増進」や「経済の活性化」、「バリアフリーの促進を通じた暮らしやすい社会の実現」を市民が期待
- 喫緊の世界的な課題であり、近年国際オリンピック委員会（IOC）が注目する気候変動対策

➡ 「スポーツ・健康」「経済・まちづくり」「社会」「環境」の4つの分野を設定し、目指すまちの姿（ターゲット）の構築と大会によりもたらされるもの（レガシー）を明確化

スポーツ・健康

◆札幌市の特徴：健康寿命が全国平均より低い

ターゲット（目指すまちの姿）

スポーツによる健康で活力のある社会

レガシー（大会によってもたらされるもの）の一例

ジュニア選手の発掘・育成

気軽にスポーツができる環境の整備

多くのボランティアとともに創る大会の実現

社会

◆札幌市の特徴：障がいのある人のうち、地域で暮らしやすいまちと思う割合が低い

ターゲット（目指すまちの姿）

全ての人にやさしい共生社会の実現

レガシー（大会によってもたらされるもの）の一例

インフラのバリアフリー化促進

心のバリアフリーの普及

経済・まちづくり

◆札幌市の特徴：雪まつり期間以外の冬期は観光閑散期
超高齢社会に適した交通体系の構築が必要

ターゲット（目指すまちの姿）

世界に躍進する魅力あふれるまちづくり

レガシー（大会によってもたらされるもの）の一例

スノーリゾートシティの実現

シームレスで快適な移動環境の構築

環境

◆札幌市の特徴：一人当たりのCO2排出量が多い

ターゲット（目指すまちの姿）

次世代が豊かな自然を享受できるまち

レガシー（大会によってもたらされるもの）の一例

再生可能エネルギーの利活用

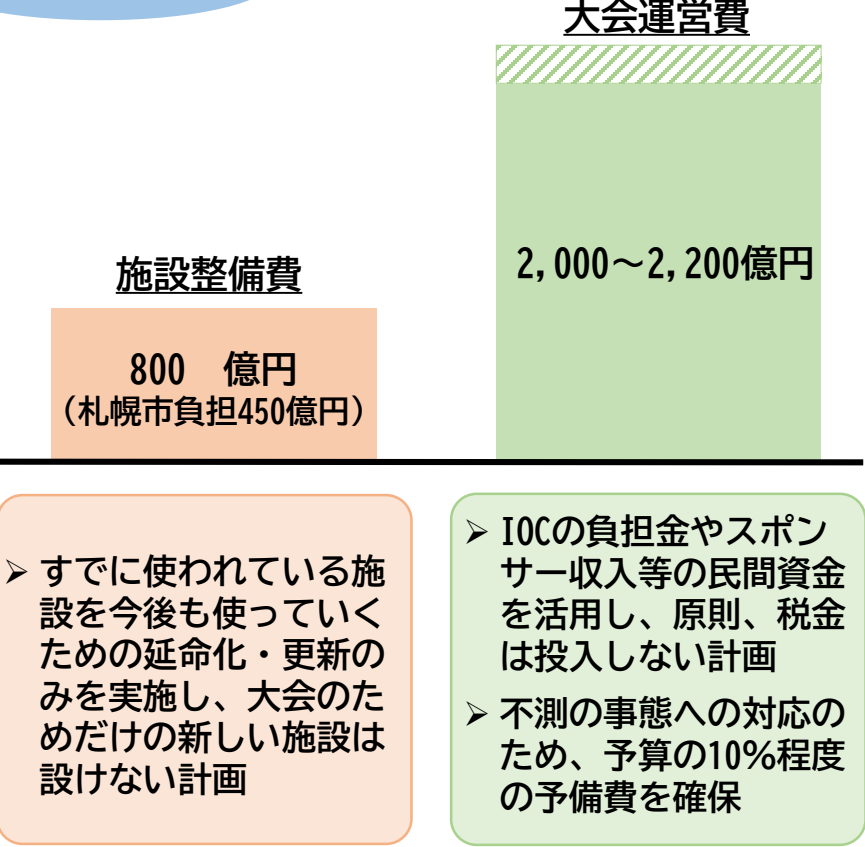
森林等の自然環境保全

大会概要（案）について

大会概要（案）のポイント

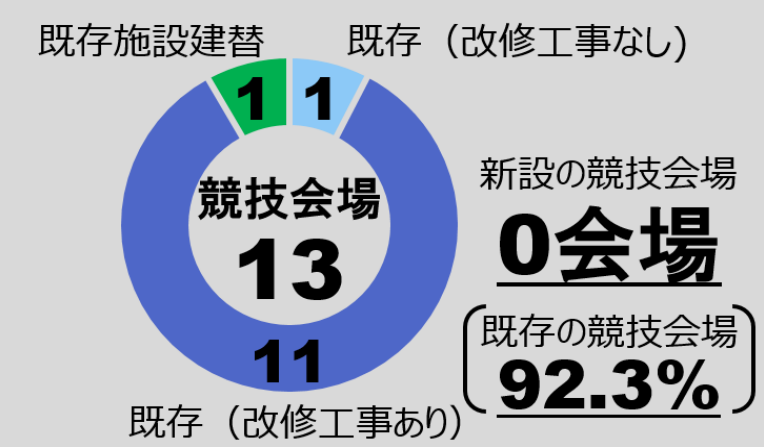
経費の精査

大会経費（試算）



札幌ならではの会場配置計画

- 1972年大会時の会場等、すでに市民利用されている施設を最大限活用
- 都心の近くでウィンタースポーツを楽しめる、札幌の特徴を活かす
- 樹木の伐採等は競技に必要な最小限の範囲内におさめ、低炭素化に貢献する新たな技術の導入等、環境保全に努める



オリンピック・パラリンピックの日程

※北京2022大会の競技・種目を参考に想定

【オリンピック】

- 期間：2030年2月8日～2月24日（17日間）
- 種目：7競技109種目

【パラリンピック】

- 期間：2030年3月8日～3月17日（10日間）
- 種目：6競技80種目

参加アスリート数：約3,500人

会場配置計画

<競技会場>

1	西岡バイアスロン競技場	■ バイアスロン ▲ パラバイアスロン パラクロスカントリースキー
2	長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）	■ ボブスレー・ボブスレー ボブスレー・スケルトン リュージュ
3	月寒体育館	■ カーリング ▲ 車いすカーリング
4	新月寒体育館	■ アイスホッケー1 ▲ パラアイスホッケー
5	北海道立真駒内公園屋内競技場	■ アイスホッケー2
6	スポーツ交流施設コミュニティドーム（つどむ）	■ スケート・フィギュアスケート ■ スケート・ショートトラック
7	帯広の森屋内スピードスケート場	■ スケート・スピードスケート
8	大倉山ジャンプ競技場	■ スキー・ジャンプ ■ スキー・ノルディック複合ジャンプ
9	白旗山競技場	■ スキー・クロスカントリースキー ■ スキー・ノルディック複合クロスカントリー

■ オリンピック ▲ パラリンピック

10	ニセコエリア	■ スキー・アルペンスキー ▲ パラアルペンスキー
11	サッポロティネススキー場	■ スキー・アルペンスキー ▲ パラアルペンスキー ■ スキー・フリースタイルスキー ■ スキー・スノーボード ▲ パラスノーボード
12	札幌国際スキー場	■ スキー・フリースタイルスキー ■ スキー・スノーボード ▲ パラスノーボード
13	さっぽろばんけいスキー場	▲ パラスノーボード

<非競技会場>

A	札幌ドーム	■ 開会式／閉会式／メダルプラザ ▲ 開会式／閉会式／メダルプラザ
B	札幌コンベンションセンター	■ メインプレスセンター
C	新展示場	■ 国際放送センター ▲ 国際放送センター※1
D	市営住宅月寒団地ほか※2	■ 選手村 ▲ 選手村

※1…パラリンピック時は国際放送センターにメインプレスセンターの機能を配置する計画

※2…選手村は老朽化した市営住宅の建替計画と連動した整備のほか、既存ホテル活用など市内で2～3の分村を検討

※3…この計画は現時点での予定で、今後変更となる可能性がある

【1972年のレガシー施設（市内）】

- 大倉山ジャンプ競技場
- 月寒体育館
- 北海道立真駒内公園屋内競技場

【既存施設の活用（市外）】

- 帯広の森屋内スピードスケート場
- 長野市ボブスレー・リュージュパーク



市民対話の概要、意向調査について

市民対話事業の実施及び機運醸成事業

シンポジウムおよびワークショップ

【目的】

- 大会概要（案）をもとに、オリンピック・パラリンピックに対する市の考えを発信し、市民の意識と理解を深め、機運の醸成を図る
- 昨今の社会情勢や生活様式の変化によって生じた、市民のオリンピック・パラリンピックに抱く意見を、今後の計画検討に取り入れる

【実施内容】

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">➢ シンポジウム<ul style="list-style-type: none">日程：1月下旬～2月上旬構成：札幌市長および3～4人程度の有識者を想定募集人数：300～400人程度開催方法：現地開催&オンラインの活用による動画配信を想定 | <ul style="list-style-type: none">➢ ワークショップ<ul style="list-style-type: none">日程：1月中旬～2月中旬構成：子どもワークショップ
全世代ワークショップ募集人数：各回50人程度開催手法：オンラインでの実施を想定 |
|---|---|

【令和元年度の実施状況】



▲シンポジウム



▲子どもワークショップ



▲大規模ワークショップ

1972年札幌大会50周年記念事業

- | | | |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">➢ 札幌大会でつながる過去と未来プロジェクト<ul style="list-style-type: none">日程：2021年10月～2022年3月内容：1972年大会にさまざまな立場で参画した市民からエピソードや想いを募集。市内の学生が絵画などへのビジュアル化を行い、未来のオリンピック・パラリンピックを考える機会を創出 | <ul style="list-style-type: none">➢ 50周年記念式典&アニバーサリーコンサート<ul style="list-style-type: none">日程：2022年3月内容：札幌大会の感動と興奮を共有し、スポーツの力を再認識するとともに札幌市の魅力を発信場所：札幌コンサートホールkitara 大ホール | <ul style="list-style-type: none">➢ 各区・体育施設巡回パネル展<ul style="list-style-type: none">日程：2021年11月～2022年2月内容：50周年記念エンブレム、市民によるおもてなしや大会参加、大会レガシーとしてのオリンピック関連施設などの紹介パネル場所：市内各区役所及び体育施設 |
|---|--|--|

2022北京大会と連動した取り組みの活用

- パブリックビューイング
 - 日程：2022年2月～3月
 - ※コロナ感染状況により実施方法を検討
 - 内容：北京オリンピック・パラリンピック
 - 場所：チ・カ・ホ 北3条広場（西）、北2条広場



市民対話事業を始めとした様々な機会や手法を活用し
冬季オリンピック・パラリンピックに対する

期待や懸念の声を把握、計画検討に反映



**市民・企業・アスリートなどの「力を結集」し、
「思いを一つ」に！**

意向調査について

調査の位置づけ

- 今回実施する意向調査は、2014年の招致表明時と同様、市民へ賛否を尋ね、その結果により招致の是非を決定するというものではなく、今後の進め方の参考とするもの
- 大会招致にあたっては、国や企業からの支援の獲得に加え、市民対話事業をはじめとした機会を活用しながら、より多くの市民の声を把握し、議会とも協議のうえで総合的に判断する

調査の考え方

- 世代間および地域間のバランス
 - ・各世代・性別ともに偏りのないバランスの取れた回答を得るため、郵送調査を含め手法を検討する
 - ※調査は成人を対象とするが、子どもたちの声も把握していく
 - ・北海道における広域の開催となるため、札幌市民のみならず、北海道民も対象とする
- 大会概要（案）の理解促進
 - ・意向調査を回答する際の判断材料として、大会概要（案）を理解していただくことが重要であることから、調査に合わせ、大会概要（案）の情報を入手できる環境を整える
- 時期
 - ・調査は年度内に実施する

市民の声に耳を傾け、対話を重ねていくことを重視

問い合わせ先

スポーツ局招致推進部調整課 北川、須志田、江澤

電話：211-3042、ファクス：211-3048